

塩谷郡市医師会リレーコラム

シリーズ「がんを知る」

第8回 前立腺がん

前立腺がんは、平成18年の統計では日本の男性のがんの第4位、死亡数は6位で明らかに増加しており、近い将来肺がんについて男性のがんの2番目になると予想されています。他のがんに比べ高齢者に多いのが特徴で、約8割は66歳以上です。発症リスクとして食生活では乳製品や肉や脂肪の過剰摂取、喫煙等が挙げられ、一方発症を予防するには大豆、緑茶、魚、野菜（アブラナ科など）、コーヒー等の摂取、また運動が有用とされています。また遺伝的素因も重要で、第一度近親者に前立腺がん症例が1人いる場合は2倍、2～3人では5～10倍の高リスクになると言われており、近親者に前立腺がんの方がいる場合は若い40歳代から検査をする必要があります。

よく誤解されがちですが、中高年齢男性に多い前立腺肥大症（BPH）から前立腺がんは発生しません。しかし、発症年齢は重なるため、排尿時の症状がある方はBPHと前立腺がんの双方を考慮する必要があり、直腸診に加えて前立腺がんの腫瘍マーカーである前立腺特異抗体（PSA）検査を行います。直腸診で結石様

♣ ご意見、ご質問、取り上げてほしい病気などありましたら、〒329-1312さくら市桜野1319-3さくら市氏家保健センター内塩谷郡市医師会までお便りをお寄せください。
♣ 問い合わせ／塩谷郡市医師会 ☎028(682)3518

国際医療福祉大学塩谷病院 院長 早川正道

硬結を触知する、あるいはPSAが高値の症例には前立腺生検が勧められます。ただし、前立腺炎や加齢でもPSA値が上がることもあり、一方BPH治療薬のプロスタール®やアボルブ®（5α還元酵素阻害剤）を服用している場合はPSA値が低下するため注意が必要です。

前立腺がんの治療は多様です。がんが限局していれば、前立腺摘除術や放射線外照射（または小線源療法）が一般的ですが、低リスク群では無治療観察も行われています。腹腔鏡下または、ロボット支援腹腔鏡下手術も、従来の恥骨後式摘除術と同等の制がん効果、ならびに排尿機能や性機能の術後回復状況が望めます。局所浸潤がんには、放射線療法またはホルモン療法との併用が推奨されます。転移症例にはホルモン療法です。他臓器転移がなければ10年生存率は80～90%、あれば5年生存率は20～30%程度ですが、ホルモン療法に抵抗性となった症例に対し、近年新しい化学療法や2次ホルモン療法が開発され、生存期間の延長が期待されています。

すこやか矢板21シリーズ⑥8 子宮がん ～検診で早期発見を！～

3月は「女性の健康づくり月間」です。「自分は大丈夫」「まだ若いから」「恥ずかしいから」「面倒だから」と子宮がん検診を受けずにいませんか？子宮がんは、早期に発見できれば治る可能性が高いがんです。早期に発見して治療につなげられるよう、がん検診を受けましょう。

子宮がんは、早期発見が治療の決め手！
もっとよく知って多くの方に検診を受けて欲しいナリ～



【子宮がん検診】

対象者	20歳以上の女性	
実施方法	集団健診	個別検診 ※矢板市と契約している医療機関
実施期間	5月～11月	年間を通じて
検査内容	子宮頸部検診	子宮頸部検診 子宮体部検診
検査料金 ※70歳以上無料	700円	頸部 700円 頸部・体部 2,200円

【子宮がんとは……】

子宮がんには下記の2種類があり、発生場所や特徴が異なります。

子宮頸がん

- ・子宮頸部（膣に近い部分）に発症する
- ・ヒトパピローマウイルスの感染が主な原因
- ・30～40歳代に多い
- ・20～30歳代でも急増している

子宮体がん

- ・子宮の奥にある体部の内膜に発症する
- ・閉経後に発症することが多い
- ・50～60歳代に多い

問い合わせ／健康増進課 ☎(43)1118

ねんきん

国民年金の手続きはお済みですか？

会社を退職されたときは国民年金の届出が必要です！

20歳以上60歳未満の方は、国民年金への加入が法律で義務付けられています。会社を退職されたときは、第2号被保険者（厚生年金）から第1号被保険者（国民年金）への変更の届出が必要となります。

※第3号被保険者（第2号被保険者に扶養されている配偶者）であった方についても、第3号被保険者から第1号被保険者への変更の届出が必要となります。

手続き窓口／矢板市市民課

手続きに必要なもの／

- ①年金手帳
- ②資格喪失証明書や退職証明書
- ③認印（本人が申請する場合は不要）

※同世帯で代理申請する場合は、代理人の身分証明書（運転免許証など）も必要です。

保険料の免除制度があります！

保険料を納めることが困難な場合には、申請によって保険料の納付が免除される制度があります。また、退職（失業）による特例免除もあります。

問い合わせ／大田原年金事務所 ☎(22)6311
矢板市市民課 ☎(43)1117 ☎(43)5962

「歯のはなし」その④6 ～矢板市歯科医師会～

前回まで、歯を失ってしまった場合、ブリッジや入れ歯といった方法で無くなってしまった歯を補う治療方法をお話ししました。これらの方法のほかに、最近よく耳にするインプラントといった処置法がありますので、今回は、インプラントについて簡単に説明します。インプラントは、人工歯根とも呼ばれ完全に歯を失った部位に、かみ合わせの力を負担する人工物を骨の中に埋め込む方法です。利点は、新しい物を埋め込むことで残っている歯の負担を減らすことが出来たり、ブリッジのように支えとなる歯を削らなくて良いことです。入れ歯のように煩わしさが少なかったり、歯肉でなく骨に力を負担させますので、よく噛むことが出来ます。欠点は、健康保険の対象外となりますので費

用が多くなることや、支えとなる骨が無い場合は、出来なかつたり、インプラントを埋め込むための手術が必要なことが挙げられます。また、手術をしても骨とのなじみが悪かったり、手入れが悪かったり、負担が大きすぎたりして、せっかく埋め込んだインプラントを失うこともありますので、しっかりした診査やお手入れが必要とされています。

4回にわたり歯が無くなってしまった時の話をしましたが、失ってしまった歯を補うには、何らかの処置が必要となります。普段から歯を大事にして、いつまでも自分の歯で美味しい食事が出来るように、毎日の歯ブラシや定期的な健診をおすすめします。

問い合わせ／健康増進課 ☎(43)1118